

研修主題

『振り返りを工夫して、深い学びができる児童の育成』—3つのまとめを達成する (I can. I use. I want) —

内容:夏休みの自主研修 *赤小の自主研修「はばたき研修(はば研)」

赤小では、今年度から自主研修を「はばたき研修(以下、はば研)」と名目して、職員全員向けの資質向上研修や若手育成のメンター研修を行っています。

7月のサマースクールの午後に赤小の職員で行った研修を紹介します。

『深い学びとは?』 講師：中島先生

今年度の赤小の研修テーマでもある「深い学び」について、長研での研修内容を伝達してもらいました。

Q:なぜ、「主体的・対話的で深い学び」が今求められるの?

A:将来の変化を予測するのが困難な時代が来る。
2030年以降の時代を生き抜くため、必要な力(資質・能力)を身に付けさせなければいけません。

Q:なぜ、これほどの資質・能力を身につけないといけないの?

A:AIによる自動化で人間の仕事が奪われてしまう時代になるかもしれない。予測困難な時代だからこそ、次の世代の子ども達には、**臨機応変な対応ができ、自分の人生をより豊かにするために必要な資質能力を身につける必要があるのです。**

その資質・能力の3本柱が、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」と「学びに向かう力・人間性等」なんですね。

Q:そのための授業改善はどうしたらいいの?

A:授業は、**逆向き設計**で考えよう。
目指す児童の姿「まとめ」をとらえて、それに対する「めあて」を考えよう。そのためにどんな手立てが必要か考えていくとよいです!

でも、やっぱり自分の授業が「主体的・対話的で深い学び」になっているかどうか不安です・・・

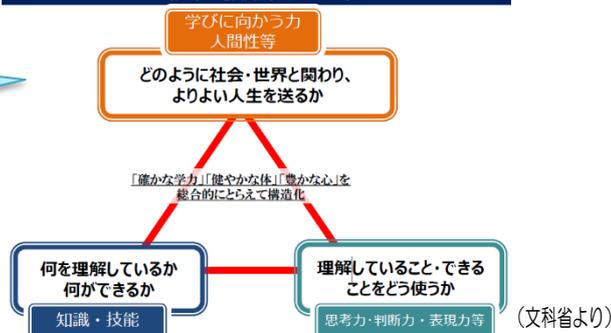
そんな時は!



これからの時代の子供たちに求められる資質能力とは?

○基礎的・基本的な知識・技能 ○問題発見能力 ○知識関連付け能力 ○解決方法発見能力 ○計画力 ○予想する力 ○情報収集能力 ○選択能力 ○情報活用能力 ○議論する力 ○主張する力 ○比較する力 ○表現力 ○発想力 ○課題解決能力 ○物事を多面的・多角的に捉える力 ○協働する力 ○持続的な社会づくりに向けた態度 ○感情・チームワーク ○優しさ ○調整力 ○困難に耐えられる力 ○相手の理解する力 ○協力する力...など (中島先生 資料より)

育成すべき資質・能力の三つの柱



自分の授業が

- | | | |
|-------|---|------|
| ①主体的 | ⇒ | 消極的 |
| ②対話的 | ⇒ | 一方的 |
| ③深い学び | ⇒ | 浅い学び |

になっていないか、チェックしてみよう!

『跳び箱指導について』 講師：阿久津先生

跳び箱の指導でどんな指導方法があるのか、実は体育が専門の阿久津先生に教えてもらいました。

跳び箱ランドで跳び箱にかかわる運動を体験しました。

阿久津 T：跳躍や腕の支持。跳び箱に必要な運動を楽しみながら体得する。低学年の技能は、技ではなく、一連の動きがスムーズにできるかを見取る方法もあります。

資料：児童も教師も確認ができるステップカードを紹介してもらいました。

阿久津 T：4年生の目標は、台上前転ができること。スモールステップでできることを明確にして意欲的に練習したりアドバイスできたりするようにしましょう。

子どもが楽しめる跳び箱ランドや、中学年・高学年の跳び箱運動に生かせそうな、用具の組み合わせ方を教わりました！



『図工教材と子供たちとの出会い方について』 講師：養田先生

図工の授業で、子供たちが教材に初めて触れる時、どんな指導を心がけると子供たちの意欲が向上するか教えてもらいました。

材料や用具との出合わせ方を紹介しました。

養田 T：鉛筆一本で薄い色、濃い色を表現できる。声かけ一つで子ども達のモチベーションが変わります。

同じ量の水に、同じ量の塩と砂糖をそれぞれ入れて、白色と黒色絵具の影響力を味覚で例えました。

養田 T：塩水が黒色、砂糖水が白色です。塩はとてもしょっぱく感じますが、砂糖は優しく甘い程度です。絵具の黒と白も同じです。

声のかけ方ひとつで意欲が上がるし、身近なものに例えたり体験したりするだけで伝わりやすくなるんですね。

